令和8年度 学力向上アクションプラン

学校番号　209　　江戸川区立二之江中学校

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差			
学年	第3学年		
年度	国語	数学	合計
令和12年度の目標			
令和11年度の目標			
令和10年度の目標			
令和9年度の目標			
令和8年度の目標	-3	-5	-8
令和7年度の結果	-4	-7	-11
令和6年度の結果	-5	-8	-13
令和5年度の結果	-2	0	-2

「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差						
学年	第1学年			第2学年		
年度	国語	数学	英語	国語	数学	英語
令和12年度の目標						
令和11年度の目標						
令和10年度の目標						
令和9年度の目標						
令和8年度の目標	-2	-1	-3	0	0	0
令和7年度の結果	-2.7	-1.1	-4.5	-0.5	-0.4	0.6
令和6年度の結果	-1.3	-6.0	-3.0	-3.9	-2.6	-0.8
令和5年度の結果						

年度	令和7年度	令和８年度	
内容	成果と課題	目標	目標達成に向けた取組
学校全体	【成果】 主体的・対話的で深い学びの充実を図るための授業改善に学校全体で取り組むことができた。 【課題】 4人グループ学習の活用において、グループ内の意見や課題に対する考え方を伝え合い、聞き合う機会に乏しい授業を改善すること。	自分の思いや考えを伝え合える、聴き合えることができる。	年間8回の校内授業研究で生徒同士、生徒と教員、生徒と教材間で対話（非言語含む）が生まれる授業についてヒントを得るようにし、全ての授業において言語・非言語どちらかのコミュニケーションが生まれる授業実践に取組む。
第1学年	【成果】 学習者に学校全体としての目標を達成させるためには、まず4人グループで学習することに慣れる必要がある。人と机1つ分の距離を挟み、向かい合って学習に取組ことで、相談のしやすい雰囲気と環境を作ることができた。 【課題】 国語は全国平均と比べて-4ポイントであり、その中でも書くことの差が最も多い領域が「書くこと」である。 数学は思考・判断・表現のみが-0.7ポイントである。 英語は「聞くこと」が最もポイントが低く-5.2であり、数学同様思考・判断・表現が弱く、-5.2ポイントである。	お互い向き合い教育活動に取り組む4人グループ学習に慣れ、思いや考えを伝え合い、聞き合えることの基盤を作る。 学習においてどのような課題があっても克服できる集団を形成する基礎を作る。 国語の「書くこと」に対する苦手意識をなくす。	一日のほとんどの時間を4人グループの形で活動をさせ、お互いの活動や表情が見える距離に慣れさせる。 作文やプレゼンテーションを通じて様々な種類の「書くこと」の活動に取り組ませる。
第2学年	【成果】 国語の「思考・判断・表現」「書くこと」「読むこと」が全国平均よりも上回ることができた。教科全体としても令和6年度-1.3から-0.5に全国平均との差を」縮めることができた。 数学も-6.0から-0.4と5.6ポイント上昇した。英語も-3.0から+0.6と3.6ポイントの上昇であり、更に英語は全国平均を上回ることができた。 【課題】 国語が全国平均に届いていない領域は「知識・技能」-2.2ポイント、「話すこと・聞くこと」が-1.7である。 数学は「図形」と「データの活用」に課題がある。「図形」-1.4ポイント、「データの活用」-1.8。 英語は「書くこと」のみ-0.5ポイントである。	学校全体の目標同様であり、思考・判断・表現する力を養いつつ「伝え合い・聞き合うこと」のできる集団を目指す。	授業者は主体的・対話的で深い学びができる授業改善を重ねる。普段の授業で挑戦し、授業研究で成果を図る。国語やその他の教科でも「書くこと」を意識し、作文形式の課題に取り組ませる。英語は「聞くこと」を伸ばすリスニングを中心とした授業展開をする。
第3学年	【成果】 全国学力調査の分析から「話すこと・聞くこと」については東京都と比べてほとんど下回っていないので、日頃の「4人グループ学習」を通して、他人の意見を受け入れ、また自分の考えを伝える経験を積み重ねることができていると考えられる。 【課題】 全国の結果と比べて「対話的な学び」のポイントが低くなっている。 また、「国語への関心」は全国よりも高いポイントとなっていることがわかる。 数学についてA層は微増したが、B層は3.7ポイント減少した。徐々に学力の二極化が進みつつある。	言語活動の更なる充実と物事の特徴や性質、関連性を読み取る力を育む。	全ての授業で言語活動に重きを置き、数学では図形やデータの活用に関する問題に取組、総合的な学習の時間やその他の教科でもデータの活用について学び、実践することとする。